

美介子

美介子(一)

和信州富士見の帰郷を志す者あり

ヤクとこころに立つて、よく下に寝けらんこ鳥

原の眺に眺りた。そのけろともし言はれぬ

美介子 眺りであつた。ハケ巻のうら

にのけた環つまるる山脈の眺り

つる、その下に描つた松林の眺り

人に世雜の感じを起させ

のまゝにやろまじつであつた。私けいつし長

い問をこに立書した。百世屋

私けその松の眺りに埋れぬ村邊を想像

した。またそこに、に眺つてゐる

想像した。各さうし、松原の

中に、眺り、さびしいと思はれ、佳んで

る人達を想像した。否、そのけつりてけ

えつた。その松原の中、村邊の中、

澤山に眺つてゐる美介子といふ女達

想像した。

可ひとつ君達には内所で、こつそ

リ、つて見るかね

高

也

い

〇

〇